

AGU NEWS No. 47

青山学院大学

AGUニュース第47号
[2009年6月～7月号]

青山学院大学・広報入試センター広報課
〒150-8366 東京都渋谷区渋谷4-4-25
TEL.03-3409-8111 (代表)
URL: <http://www.aoyama.ac.jp/agunews/>



青山キャンパス

特集  AOYAMA
GAKUIN
UNIVERSITY

特別座談会

青山学院[創立135年]と 青山学院大学[創立60年]のこれから

学校法人 青山学院 松澤 建 理事長
青山学院大学 伊藤 定良 学長
青山学院大学 土山 實男 副学長

青山学院の“第2の校歌”「学生時代」の歌碑が
青山キャンパスに完成し、除幕式が行われました。

TOPICS

2009年度一般入学試験・
大学入試センター試験利用入学試験結果
「かながわ産学公連携推進協議会」発足

報告・お知らせ

2009年度新役職員紹介
2009年度新任専任教員紹介
2008年度学生表彰
2008年度体育会優秀団体・選手表彰

誌上公開講座

青山スタンダード科目
「ウェルカム・レクチャー」

INFORMATION

2009年度進学相談会開催日程
2009年度オープンキャンパス
2009年度ベアレンツウィークエンドのお知らせ

青山学院大学「創立60年」のこれから 青山学院「創立135年」と

2009年は、青山学院創立135周年、
青山学院大学創立60周年の節目の年です。
そこで松澤理事長と伊藤学長との対談の場を設け、
アカデミック・グランドデザインを基軸とし、
これからも発展を続ける本学の取り組みについて、
積極的な意見交換を行いました。

青山学院大学の新しい歴史がスタート

土山 2009年の今年、青山学院創立135周年、および青山学院大学創立60周年という記念すべき年にあたります。今年、年明け早々の1月2日、3日、本学陸上競技部が33年ぶりに箱根駅伝に出場、無事に完走し、大きな感動を与えてくれました。また、2009年度の入試におきましても約8,000名の受験者増を実現、少子化が問題となるなかで、一定の結果を得ることができたのではないかと考えております。そして4月4日には満開の桜のもと、入学式を挙行いたしました。こうしてみますと、本学は、勢いをもって記念の年をスタートできたように思います。

さて、この節目の年を迎えるにあたり、まずは松澤理事長に青山学院の創立135周年に関して伺います。

松澤 青山学院は、アメリカのメソジスト監督教会が日本に派遣した宣教師によって源流となる学校が創立されて、今年で135年を迎えます。当然ながら135年の歴史を顧みると、さまざまな苦難の時代もありました。それを先達の方々は、確固たる“信念”と“勇氣”を持って困難に立ち向かい、また祈りと共に内部・外部の人々との論議を重ねることで乗り越えてきました。

現在、少子化や厳しい経済状況などの影響を受けて、学院は困難の時期を迎えています。このような時こそ、キリスト教信仰に基づく建学の精神を第一義とし、厳しい状況を好機と捉え、21世紀に相応しい教育・充実発展に向けて、迅速に改革を進めております。

土山 伊藤学長には学院135周年のこともふくめて創立60周年を迎える青山学院大学についてお話を聞きたいと思います。



松澤 建

学校法人 青山学院理事長

伊藤 私も青山学院の135年の歴史には、大きな重みを感じます。「2009年に青山学院大学が創立60周年を迎える」との告知をすると、よく「まだ60年ですか?」「本当に戦後の設立なのですか?」と不思議

がられます。やはり学院としての長き歴史のイメージがあるのでしょう。大学も学院の伝統と歴史のなかで、しっかりと成長を続けていくつもりです。

創立60周年は、同時に次の60年に向けて、青山学院大学が新しい一歩を踏み出す意味も持ちます。常に社会貢献を目指し、人々のニーズにどう応えるべきかを考え続ける本学ですが、2008年に総合文化政策学部と社会情報学部を、そして今年2009年には教育人間科学部を設置し、新しい学びの体制を整えました。土山先生からも紹介のあった通り、今回顕著な入試結果を残せたことから、我々の改革の方向性が、かなりご理解いただけたのではないかと考えています。

大学は「学びの場」であり、「出会いの場」であり、「創造の場」であります。これらを象徴する言葉として、私は学長就任以来、「大学は新しい知の共同体」と称していますが、こうした理想を追求するには、社会への貢献とともに世界への貢献も必要です。今後は世界に目を広げたいと、国際交流や地域交流を実現し、社会や世界の動きと連動していける新しい教育・研究の場をつくりあげたいと思います。

土山 では、松澤理事長から創立60周年を迎えた大学への期待をお聞かせください。

松澤 60年と言えば、人間だと「還暦」です。そういう意味では、ちょうど節目の時期でもあり、伊藤学長もおっしゃったように、「新しい大学の歴史が始まる」と言っても過言ではありません。大きな節目を迎え、教職員一同も新たな思いでいることでしょう。正月の箱根駅伝もしかり、また昨年文科科学省から選定された8つの教育GP獲得もしかり、まさに60周年の記念の年にふさわしい明るい話題が数多く生まれ、歴史に残るエポックメイキングの年であると認識しています。

先日ある大手新聞社で、1万人のビジネスマン対象に、「学び

左:青山キャンパス(1932年)
右:青山キャンパス正門(1949年頃)



専門部の授業風景

やすさ」「得ることの大きさ」「社会で活躍できる人材輩出」等に優れた大学についてのアンケート調査を行った結果、青山学院大学は“第4位”にランクインしていました。これは大いに誇りに感じ、胸を張って良い数字だと思います。伊藤学長は奥ゆかしく、こうした自慢気な話を自らされることはないので、私が代わりに発表いたしました(笑)。少子化や経済の大不況など、暗い話題が多い時代ですが、建学の精神に基づいたすばらしい内容の教育を展開していれば、青山学院大学が、さらに輝きを増すことは可能はずです。そのためにも関係各位と大いなる論議を重ねてまいりたいと思っています。

2012年から就学キャンパスの再配置を実施

土山 現在、本学は、2012年の就学キャンパスの再配置を見据え、A棟(仮称)の建築をはじめとする再開発を進めています。この再配置の意味についてお話を伺いたいと思います。

伊藤 2012年4月から人文・社会科学系の7つの学部は、すべて4年間を通じて青山キャンパスでの就学を予定しています。その学生を受け入れるためにもA棟(仮称)の建築をはじめとする再開発を進めているわけです。このキャンパスが「青山」に位置する地の利については、今さら論じるまでもありませんが、学生にとって、自分たちの研究対象に密着した文化的施設等を最大限に生かすことのできる、恵まれた環境だと言えます。それは豊かな人間性および感性の育成にもつながるはずで、また、最近



伊藤 定良

青山学院大学学長



司会

土山 實男

青山学院大学副学長

は大学院の重要性が注目されていますが、本学でも学部と大学院との一貫した教育体制の構築を積極的に進めていきます。アカデミック・グランドデザインにも記されていますが、“トータルデザインによる人間教育”といった観点からも、4年間を通して「青山」「相模原」で学ぶ意義が見えてくるはずです。

松澤 伊藤学長の言葉に尽きますが、「青山」の利便性や文化的価値には計り知れないものがあります。また4年間を同じキャンパスで過ごすということは、1年生から4年生までが一緒の空間で学ぶことであり、先輩後輩の枠を超えた交流から、学生たちがさまざまなことを学べるはず。そういった効果にも期待します。

そして忘れてはならないのは、この青山キャンパスの再開発は、多くの方々の善意によって成り立っていることです。その象徴とも言える学院の創立130周年を機にスタートさせた「青山学院 EVERGREEN 21募金」も、今年の12月31日で一応の募集期間を終了いたします。これまでに多くの卒業生、在学生、保護者の方々、各企業・法人、そしてもちろん教職員の方々にも快くご賛同いただき、大きな成果を挙げられたことを大変感謝しております。これからも、なお一層のご理解とご支援をいただきたいと存じます。ぜひとも引き続き、募金事業へのご協力をお願いいたします。

土山 青山キャンパスの再構築にともない、理工学部と社会情報学部のある相模原キャンパスのより大きな役割と期待が高まるかと思われ。これからの相模原キャンパスについての抱負をまずは伊藤学長からお願いします。

伊藤 最新鋭の設備機器が充実する理工学部と、文理融合をコンセプトとする社会情報学部は、現段階においては、相模原キャンパスを自然科学と文理融合型学部の拠点として最大限生かせる方向性を持った学部であると考えています。ただしアカデミック・グランドデザインの相模原キャンパスコンセプトに「歴史を創るキャンパス」とありますように、まだまだ改善・改革が必要でしょう。新学部設置の模索や中学・高校等の設立による一貫教育体制の構築など、将来を見据えた議論を行っている段階です。

松澤 よりよいキャンパスづくりのための議論は、本当に大切だと思います。私も現場の教職員の方々との活発な議論を望んでおります。教育・研究体制をより一層充実させていくためにも相模原キャンパスに関わる大切な諸問題について、じっくり取り組んでまいりましょう。

そういえば以前、ある国の大使と話をしたときに、「渋谷・青山は確かに恵まれた立地ですが、刺激が強すぎて困る。自分の国の学生を留学させるなら相模原がいい」と言っていたことがあります。すでに地元地域や企業との密接な交流も活発化していますが、相模原という地域には、相模原ならではの大きな価値があることを私は確信しています。

国際社会における青山学院の役割

土山 本学自体が国際交流のなかで生まれ、育ってきた学校ですから、本学の役割として国際社会への貢献が挙げられます。それだけに国際交流のいっそうの充実が望まれますが、青山の国際交流についてお話しいただけますでしょうか。

松澤 青山学院大学は、よく“英語の青山”と呼ばれるとともに、国際交流でも最先端を走っているとのイメージを多くの方々が抱いているようです。それは有り難いことではありますが、そうした期待の大きさと比べますと、我々の国際交流への取り組みは、まだまだ足りないように思えます。とりわけ欧米だけでなく、アジア近隣の国々との教育的、文化的、さらには平和的な交流を充実させていくことが必要です。ただし本当の交流とは、一方的にこちらの思いを押し付けるのではなく、お互いに言いたいことは言い合いながら、切磋琢磨していく過程が求められます。日本の先進の技術や豊かな文化を広く伝えることも必要ですが、先方から積極的に学ぶことも大切。留学生の受け入れなども同じですが、相互にメリットのある交流が、本当の意味での交流と呼べるのではないのでしょうか。

土山 文部科学省は2020年を目処に、30万人の留学生を日本に受け入れる計画を発表しています。留学生受け入れ計画に対する大学の方針について伊藤学長にお伺いいたします。

伊藤 21世紀は「文化の時代」と言えます。大学としても文化を通じた国際交流が大きな課題のひとつです。我々の教育・研究は、欧米に軸足が向きがちですが、やはりアジア各国との付き合い方は重要です。本学でも多くのアジアからの留学生を受け入れていますが、もちろん文部科学省の取り組みにも積極的に対応していきたいと考えています。留学生を迎えることは、本学の学生にとっても大きな意義のあることです。お互いに異なる文化交流、相互理解のなかで刺激を受け合い、新たな発見が生まれます。

考え方の違う人との交流は、自分自身の新たな可能性を見つけることにもつながるのです。

ただし、留学生を受け入れるだけでなく、本学の学生にもぜひ世界に飛び出してもらいたいと切に願っています。我々の時代と比べても、どうも最近の学生は国際社会への関心が薄いような気がしてならないのです。外国で生活することで日本や自分自身を振り返ることができます。机上の学びでは得られない、生きた学びを体験できるのです。本学には世界中に多くの協定校があり、留学制度も充実しています。あるいは卒業旅行などでも構いません。若い時代に、できる限り海外を見て学んでもらいたいと思います。

土山 まったく同感です。

松澤 そうですね。海外での経験は、その人を大きく成長させます。私も33年ほど前ですが、企業に勤めていたころにマレーシアに5年間在任したことがあります。今でこそ発展したマレーシアですが、当時は発展途上にありました。そういう環境で過ごした経験から言えば、時代の最先端に行く国にも良さはありますが、発展途上の国を見た方が、「日本」や「自分自身」のことがよく分かります。それは日本の“すばらしさ”や“恵まれた環境”に気づくことができるからです。3月19日～25日の日程でベトナムの教育事情の調査のために訪問しましたが、今のベトナムも決して豊かな国ではありません。それでも街や住む人々から活気や意欲が伝わってくるのです。みんな非常に勤勉ですし、これから国が発展、成長していくことを信じて頑張っていることを実感できます。そんな雰囲気や学生たちが肌で感じることであれば大きな財産になるはずで、留学生を迎えるだけでなく、本学の学生を世界に送り出すことも本当に大切ですね。

アカデミック・グランドデザインの実現を目指して

土山 最後にあらためて大学60周年、学院135周年を機に新しい一歩を踏み出す青山学院の抱負をお聞かせいただきたいと思います。まず伊藤学長からお願いいたします。

伊藤 27年前に国際政治経済学部が設置されて以来、ずっと大きな学部改革のなかった本学が、時代のニーズに対応し、昨年、今年と続いて新学部を立ち上げました。この積極的な動きによって教育のソフト面は、かなり充実できたと考えており、今後も柔軟

な姿勢で教育・研究の面からの社会貢献を目指してまいります。一方で課題となるのは、ハード面の一層の充実。これは費用面の問題もありますので、抱負というよりも理事長へのお願いになるかもしれませんが…(笑)。例えば、青学の新しいシンボルとも呼べるような新図書館の設立はぜひお願いしたい一件です。また本学には歴史的にも貴重な財産となり得る資料や逸品が数多く保存されています。それらを広く公開できる「資料館」の設立も具体化していただきたいと思います。こうした施設は、学生や一般の方々への大きなアピールとなるはずですから。

松澤 それらを実現するためにも、青山学院の教育方針に則って2006年11月に策定したアカデミック・グランドデザインを1歩ずつ確実に実現していくことが大切なのです。

昨年、青山学院が抱える問題点を解決するために、174項目の課題からなる「理事長声明」を発信し、現在、法人、教員、職員が一体となって取り組みを開始しました。そうした延長線上に、ハード面のさらなる充実も見えてくると思います。今後も伊藤学長と、このような率直な意見を言い合える場を数多く設けていきたいですね。

伊藤 活発な意見交換の場を設けることは、ぜひこちらからもお願いいたします。

土山 本日は、ありがとうございました。良いお話をお伺いすることができましたことをお礼申し上げます。本年が青山学院の新しい歴史を刻む年となりますよう、みんなで努力していきたいと思います。



松澤 建 学校法人 青山学院理事長

伊藤 定良 青山学院大学学長

2009年度一般入学試験・ 大学入試センター試験利用 入学試験結果

2009年度の一般入学試験においては、文学部第二部教育学科で学生募集を停止し、新学部『教育人間科学部(教育学科・心理学科)』と経営学部の新学科『マーケティング学科』で新規に学生募集を行いました。また、大学入試センター試験利用入学試験では、設置2年目の総合文化政策学部と社会情報学部の他、経営学部マーケティング学科でも新規に募集を行いました。

2009年度入学試験について、受験産業界からは「経済不況により受験者の国公立大学志向が高まり、私立大学受験が敬遠される」との予測もありましたが、本学における一般入学試験と大学入試センター試験利用入学試験の志願者総数は、54,930名(対前年7,720名増、116.4%)と大幅増となりました。

《一般入学試験》

2009年度一般入学試験における志願者数は、昼間部が40,077名(対前年5,015名増)、第二部(夜間部)が516名(対前年409名減)、合計40,593名(対前年4,606名増)となりました。志願者数が40,000名を超えたのは、2003年度入学試験以来、6年振りのこととなります。設置2年目の社会情報学部で大幅に志願者数を増やした他、経済・経営学部でも志願者数を伸ばしました。

《大学入試センター試験利用入学試験》

大学入試センター試験利用入学試験(前期日程)は、昨年度と比べ、全学部合計で3,348名の志願者増となりました。また、2009年度より新しく社会情報学部を加えて実施した、大学入試センター試験利用入学試験(後期日程)では、全学部あわせて408名の志願者を集めました。前期日程と後期日程の志願者総数は、14,337名となり、本学が大学入試センター試験利用入学試験を導入した2005年度以来、過去最高の数字を記録しました。

2010年度より、一般入学試験『全学部日程』を新設。 教育人間科学部では、大学入試センター試験利用入学試験 を新規に実施。

2010年度入学試験では、一般入学試験において従来の入学試験日に加え、『全学部日程』の試験日を設定することとなりました。また、教育人間科学部(教育学科・心理学科)と文学部(英米文学科・日本文学科)において、新規に大学入試センター試験利用入学試験を実施します。広報入試センターでは、2009年度入学試験結果と2010年度入学試験の詳細を大学紹介パンフレット『大学案内』に掲載し、6月より全国の受験者に頒布いたします。

セ:センタープラス方式 エ:学科同時エントリー方式
倍率=受験者/合格者(ただし国際政治経済学部 学科同時エントリー方式の倍率については、学科同時エントリー方式の総受験者/総合合格者で算出)
*国際政治経済学部 学科同時エントリー方式の志願者は、各学科を第1志望とした者の数合格者に※印がある場合は、補欠を含みます。

2009年度入学試験結果

一般入学試験

学部・学科		方式・募集人員	志願者	合格者	倍率			
文学部	英米文学科	A	約150	1,395	402	3.3		
		B	約40	647	147	4.0		
		計	約190	2,042	549	3.5		
	フランス文学科	A	約65	686	210	3.0		
		B	約10	77	21	3.3		
		計	約75	763	231	3.0		
	日本文学科	A	約75	971	218	4.1		
		B	約10	183	24	7.2		
		計	約85	1,154	242	4.4		
	史学科	A	約65	872	※189	4.3		
		B	約10	318	30	9.8		
		計	約75	1,190	219	5.0		
合計			約425	5,149	1,241	3.8		
教育人間科学部	教育学科	A	約80	1,825	※277	6.2		
		B	約10	429	26	15.7		
		計	約90	2,254	303	7.0		
	心理学科	A	約65	1,021	※208	4.7		
		B	約10	340	25	12.7		
		計	約75	1,361	233	5.5		
合計			約165	3,615	536	6.4		
経済学部	経済学科	A	約210	4,297	※546	6.9		
		B	約50	928	147	5.2		
		計	約260	5,225	693	6.5		
	現代経済デザイン学科	A	約40	1,543	※101	13.4		
		B	約30	586	54	9.4		
		計	約70	2,129	155	12.0		
合計			約330	7,354	848	7.5		
法学部	法学科	A	約80	1,007	※231	3.9		
		セ	約200	1,735	※626	2.4		
合計			約280	2,742	857	2.8		
経営学部	経営学科	A	約170	4,307	※516	7.9		
		B	約20	151	44	3.2		
		C	約35	863	96	8.3		
		計	約225	5,321	656	7.6		
	マーケティング学科	A	約85	1,783	200	8.5		
		B	約10	89	32	2.6		
		C	約15	337	39	8.2		
		計	約110	2,209	271	7.8		
		合計			約335	7,530	927	7.7
		国際政治経済学部	国際政治学科	A	約50	957	※159	5.2
B	約5			95	14	5.9		
エ	約5			*47	5	6.5		
計	約60			1,099	178	5.3		
国際経済学科	A		約40	434	※88	4.4		
	B		約5	85	12	6.0		
	エ		約5	*49	7	6.5		
	計		約50	568	107	4.7		
国際コミュニケーション学科	A		約25	628	※121	4.7		
	B		約13	203	29	6.0		
	エ		約5	*75	10	6.5		
	計		約43	906	160	5.0		
合計			約153	2,573	445	5.1		
総合文化政策学部	総合文化政策学科	A	約120	2,352	※284	8.1		
		B	約30	624	※87	6.1		
合計			約150	2,976	371	7.6		
理学部	物理・数学科	A	約30	494	173	2.7		
		B	約22	236	87	2.5		
		セ	約5	16	7	2.1		
		計	約57	746	267	2.6		
	化学・生命科学科	A	約30	759	※248	2.8		
		B	約22	262	58	4.2		
		セ	約5	44	12	3.3		
		計	約57	1,065	318	3.1		
	電気電子工学科	A	約30	557	※166	3.2		
		B	約20	276	65	4.0		
		セ	約3	8	3	2.3		
		計	約53	841	234	3.5		
	機械創造工学科	A	約35	736	183	3.9		
		B	約15	135	47	2.6		
		セ	約5	50	13	3.8		
		計	約55	921	243	3.6		
	経営システム工学科	A	約30	504	118	3.9		
		B	約20	244	84	2.7		
		計	約50	748	202	3.4		
		情報テクノロジー学科	A	約30	429	78	5.2	
	B		約20	283	70	3.8		
	セ		約5	68	20	3.0		
	計		約55	780	168	4.4		
	合計			約327	5,101	1,432	3.3	
社会情報学部	社会情報学科	A	約100	2,795	※261	10.3		
		B	約30	242	60	3.8		
	合計			約130	3,037	321	9.1	
	昼間部合計			約2,295	40,077	6,978	5.3	
文学部第二部	英米文学科	A	約35	397	69	4.8		
		B	約20	119	37	2.5		
	合計			約55	516	106	4.0	
第二部(夜間部)合計			約55	516	106	4.0		
昼間部・第二部総合計			約2,350	40,593	7,084	5.3		

2009年度都道府県別志願者・合格者

大学入試センター試験利用入学試験

《前期日程》

学部・学科	募集人員	志願者	合格者	倍率	
文学部					
フランス文学科	10	780	162	4.8	
史学科	5	629	145	4.3	
合計	15	1,409	307	4.6	
経済学部					
経済学科	10	733	206	3.6	
現代経済デザイン学科	3教科型	10	631	51	12.4
	4教科型	10	686	75	9.1
	計	20	1,317	126	10.5
合計	30	2,050	332	6.2	
法学部法学科					
3教科型	10	1,007	95	10.6	
4教科型	10	582	98	5.9	
計	20	1,589	193	8.2	
経営学部					
経営学科	7	774	37	20.9	
マーケティング学科	3	406	10	40.6	
合計	10	1,180	47	25.1	
国際政治経済学部					
国際政治学科	3教科型	13	902	120	7.5
	4教科型	5	198	48	4.1
	計	18	1,100	168	6.5
国際経済学科	2教科型	10	539	60	9.0
	3教科型	8	465	46	10.1
	4教科型	10	196	79	2.5
計	28	1,200	185	6.5	
国際コミュニケーション学科	9	478	46	10.4	
合計	55	2,778	399	7.0	
理工学部					
総合文化政策学部総合文化政策学科	10	892	77	11.6	
物理・数理学科	5	286	74	3.9	
化学・生命科学科	5	383	60	6.4	
電気電子工学科	3	411	50	8.2	
機械創造工学科	5	319	77	4.1	
経営システム工学科	5	428	90	4.8	
情報テクノロジー学科	3	321	101	3.2	
合計	26	2,148	452	4.8	
社会情報学部社会情報学科	20	1,883	168	11.2	
総合計	186	13,929	1,975	7.1	

倍率 = 志願者 / 合格者

《後期日程》

学部・学科	募集人員	志願者	合格者	倍率
法学部法学科	5	54	24	2.3
経営学部				
経営学科	3	34	10	3.4
マーケティング学科	2	26	5	5.2
合計	5	60	15	4.0
国際政治経済学部				
国際政治学科	3	34	12	2.8
国際経済学科	3	62	8	7.8
国際コミュニケーション学科	3	39	19	2.1
合計	9	135	39	3.5
理工学部				
物理・数理学科	3	21	8	2.6
化学・生命科学科	3	22	4	5.5
電気電子工学科	2	12	3	4.0
機械創造工学科	2	12	4	3.0
情報テクノロジー学科	2	21	4	5.3
合計	12	88	23	3.8
社会情報学部社会情報学科	5	71	20	3.6
総合計	36	408	121	3.4

倍率 = 志願者 / 合格者

一般入学試験・大学入試センター試験利用入学試験

都道府県名	一般入学試験		大学入試センター試験利用入学試験	
	志願者	合格者	志願者	合格者
北海道	577	93	276	50
青森	117	20	72	5
岩手	110	17	61	11
宮城	301	60	165	25
秋田	164	22	87	12
山形	136	20	86	19
福島	349	68	191	24
小計	1,754	300	938	146
北関東				
茨城	1,291	203	480	64
栃木	648	126	249	35
群馬	740	116	351	45
小計	2,679	445	1,080	144
首都圏				
埼玉	3,105	517	952	129
千葉	2,652	412	802	113
東京	11,134	1,925	3,170	410
神奈川	9,591	1,813	2,513	347
小計	26,482	4,667	7,437	999
北陸・甲信越				
新潟	546	112	270	49
富山	201	46	138	30
石川	175	37	104	18
福井	85	18	67	9
山梨	338	66	155	26
長野	751	122	352	59
小計	2,096	401	1,086	191
中部				
岐阜	349	56	147	25
静岡	1,154	191	535	90
愛知	1,163	213	559	101
三重	230	44	115	25
小計	2,896	504	1,356	241
近畿				
滋賀	73	5	27	4
奈良	90	16	63	10
和歌山	102	22	34	5
小計	265	43	124	19
京阪神				
京都	132	21	68	12
大阪	432	75	183	29
兵庫	372	46	173	25
小計	936	142	424	66
中国				
鳥取	72	10	30	5
島根	45	13	24	9
岡山	167	27	123	14
広島	480	78	223	27
山口	199	41	119	17
小計	963	169	519	72
四国				
徳島	59	14	30	4
香川	156	32	108	21
愛媛	141	25	103	21
高知	85	14	59	8
小計	441	85	300	54
九州・沖縄				
福岡	628	100	320	57
佐賀	151	28	77	13
長崎	106	16	74	17
熊本	167	18	107	10
大分	128	28	100	18
宮崎	70	15	50	11
鹿児島	133	24	109	17
沖縄	94	10	61	2
小計	1,477	239	898	145
高等学校卒業程度認定試験他	509	67	165	18
外国他	95	22	10	1
合計	40,593	7,084	14,337	2,096

広報入試センター 『進学情報コーナー』に行ってみよう!

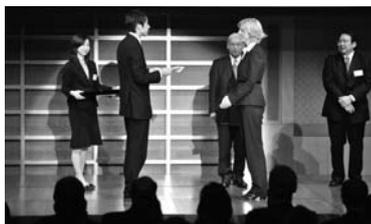
青山キャンパスの総合研究所ビル1階 広報入試センター内に、大学への進学に関するさまざまな情報を受験生のみなさんに提供する『進学情報コーナー』が設けられています。進学に関する質問はもちろんのこと、青山学院大学のさまざまな資料を閲覧したり、大学紹介ビデオなどを鑑賞することができますのでお気軽にご利用ください。



開室時間は、平日9時～17時、土曜日9時～13時です(夏期休業期間等は開室日・時間が変更になることがあります)。グループ、学校単位での利用希望の場合は、予め広報入試センター広報課へお問い合わせください。

お問い合わせ先 TEL.03-3409-8626

理工学研究科の渡辺 拓人さんが、 第1回ドイツ・イノベーション・アワード「ゴットフリード・ワグネル賞2008」を受賞



本学大学院理工学研究科博士後期課程2年の渡辺拓人さんの研究テーマ「非接触測定による電流分布推定に関する研究」が、第1回ドイツ・イノベーション・アワード「ゴットフリード・ワグネル賞2008」を受賞しました。

日本に縁の深いドイツ人科学者ゴットフリード・ワグネルにちなんで名付けられた同賞は、ドイツの有力企業および在日ドイツ商工会議所が、優れた日本の若手研究者の支援（応募対象は45歳以下）や日独間の産学連携を進める目的で設立。全国から91名の応募があり、厳正な選考により5名の受賞者が選ばれました。同時に受賞した他の4名は、それぞれの分野の研究で知られた大学の准教授の方々。渡辺さんの大学院博士課程学生としての受賞は、快挙と呼べるものです。授賞式に来賓として出席された野田聖子内閣府特命担当大臣より、「さらに研究に励んでください。将来を期待しています。」と受賞者の中でも最年少の渡辺さんに激励の言葉をいただきました。

理工学研究科 博士後期課程2年 渡辺 拓人さん

自分の研究が、このような賞に選ばれて本当にうれしく思います。これも橋本修教授のご指導があったからこそです。



左から橋本教授、渡辺さん

電子機器の急速な小型・高速化に伴い、生活環境が便利になる一方で、これらから発生する不要な電磁波が人体へ影響を及ぼすことや、あるいは他の機器への妨害となることが問題視されています。今回の研究では、不要な電磁波の波源となる高周波電流に着目。回路基板を流れる高周波電流の周囲に発生する磁界を測定することで、二次元の電流分布を可視化し、高周波電流の発生箇所の特定を試みました。何よりも本手法は「非接触」での測定がポイントで、従来のように測定機器（電流プローブ等を含む）への接続・接触が不要です。そのため、基板配線やケーブル等の加工作業を必要とせず、試作段階だけでなく、量産後の製品検査等にも適用することが可能です。また製品設計の早い段階から不要放射対策を行うことで、再設計や再試作にかかる無駄を抑え、製品のコストダウンにもつながるはず。今後は、この手法を応用して、不要な電磁波の放射を抑制する方法、さらに放射量の精密な評価技術についても研究を進めたいと考えています。

理工学研究科 電気電子工学コース教授 橋本 修

私の研究室では、電磁波を目に見える形で細かくシミュレーションする手法について研究していますが、渡辺くんの成果は、他の研究とも連携し、今後さらに取り組みを深めていける可能性を秘めています。普段からしっかりと段取りを組んで研究に臨む渡辺くんの姿勢や人柄が、今回の受賞につながったのでしょうか。心から「おめでとう」と言わせていただきます。

大学と企業との組織的な“産学公連携”を実現する 「かながわ産学公連携推進協議会」が発足

大学における“産学連携活動”は、これまで大学ごとに企業と提携し、独自に活動を進めるケースがほとんどでした。そのため企業からの多岐にわたる要望に、個別の大学では対応しきれなかったり、一方で中小の企業にとって大学への相談は敷居が高く感じるなど、スムーズに循環するネットワークづくりが不十分であったのが実情です。そこで神奈川県内に拠点を置く企業のニーズと大学の研究シーズとのマッチングを目指し、県内の大学、公的産学連携支援機関、企業団体等によって構成される公的組織「かながわ産学公連携推進協議会」が発足。企業からの相談窓口を公的産学連携支援機関に設置し、相談内容に適した大学（研究室／教授）を企業に紹介することで、神奈川県内の“産学公連携活動”をより活発に展開させる予定です。

2009年2月18日（水）に「かながわ産学公連携推進協議会」の発足式に出席した、本学の岡田昌志副学長と辻正重理工学部長も、同協議会の今後の取り組みに大きな期待を抱いています。



副学長
岡田 昌志

“産学連携による地域貢献”を掲げる「かながわ産学公連携推進協議会」の目指す方向性は、本学の取り組みとも非常に共通している部分もあり、積極的に同協議会への参加を決めました。地元企業からの相談窓口を公的機関に設けることで、これまでとは異なる新しい企業との出会いが生まれ、本学の研究活動もさらなる活発化を見せるはず。また企業だけではなく、他大学と連携する機会も多くなると予想され、互いに切磋琢磨しながら、より高いレベルでの地域および社会への貢献が期待できると考えています。



理工学部長
辻 正重

高度な分析技術を誇る「機器分析センター」を擁する理工学部では、企業が開発した物質の成分分析、構造解析に関する技術指導などの依頼に応える形で、企業と連携した活動実績を数多く積み重ねてきました。今後ますますこうした企業との連携が増えることは、学生たちにとっても、最先端の技術に現場レベルで関われる貴重なチャンス。今回の取り組みへの参画は、大学の重要な役割である「教育面」へのメリットも大きいと言えます。「教育」と「研究」をバランスよく探究できる環境を、より一層充実させていくつもりです。

2009年度新役職員紹介

教育人間科学部長・大学院教育人間科学研究科長 池田 稔

池田 稔教授が選任された。任期は2009年4月1日より2年間。大学院教育人間科学研究科長を兼務。青山学院大学大学院文学研究科教育学専攻博士課程所定の単位取得退学。文学修士。教職課程主任、文学部教育学科主任、大学院文学研究科教育学専攻主任を歴任。



大学宗教部長 大島 力

経済学部 大島 力教授は2009年3月末日をもって任期を満了、引き続き同氏が再任された。任期は2009年4月1日より2年間。

就職部長 港 徹雄

教育人間科学部心理学科 仁科 貞文教授は2009年3月末日をもって任期を満了、後任には国際政治経済学部国際経済学科 港 徹雄教授が選任された。任期は2009年4月1日より2年間。



経営学部長・大学院経営学研究科長 田中 正郎

岩田 伸人教授は2009年3月末日をもって任期を満了、後任には田中 正郎教授が選任された。任期は2009年4月1日より2年間。大学院経営学研究科長を兼務。甲南大学大学院社会科学研究科経営学専攻博士後期課程単位取得退学。経営学修士。経営学部経営学科主任を歴任。



情報科学研究センター所長 林 洋一

理工学部電気電子工学科 林 洋一教授は2009年3月末日をもって任期を満了、引き続き同氏が再任された。任期は2009年4月1日より2年間。

保健管理センター所長 五味 慎太郎

経営学部経営学科 五味 慎太郎教授は2009年3月末日をもって任期を満了、引き続き同氏が再任された。任期は2009年4月1日より2年間。

会計プロフェッション研究科長 鈴木 豊

青木 茂男教授は2009年3月末日をもって任期を満了、後任には鈴木 豊教授が選任された。任期は2009年4月1日より2年間。明治大学大学院商学研究科商学専攻博士課程満期退学。博士(経営学)。大学院会計プロフェッション研究科開設準備委員長、研究科長、経営学部第二部経営学科主任を歴任。



学生相談センター所長 北村 文昭

教育人間科学部心理学科 北村 文昭教授は2009年3月末日をもって任期を満了(2008年12月より2009年3月まで前所長の残存期間)、引き続き同氏が再任された。任期は2009年4月1日より2年間。



国際マネジメント研究科長 高橋 文郎

高橋 文郎教授は2009年3月末日をもって任期を満了、引き続き同氏が再任された。任期は2009年4月1日より2年間。

学院宗教部長 嶋田 順好

国際政治経済学部 嶋田 順好教授は2009年3月末日をもって任期を満了、引き続き同氏が再任された。任期は2009年4月1日より2年間。

総合研究所長 本間 照光

文学部英米文学科 秋元 実治教授は2009年3月末日をもって任期を満了、後任には経済学部経済学科本間 照光教授が選任された。任期は2009年4月1日より2年間。



2009年度新任専任教員紹介

2009年4月1日付就任者の所属、氏名、専門分野を掲載しています。

文学部 フランス文学科

LECLERCQ, A. 准教授(専任待遇)
フランス近代詩、中世フランス文学
久保田 剛史 准教授
16世紀フランス文学・思想(特にモンテーニュ)

教育人間科学部

緒方 孝文 教授
英文学

山本 史歩子 准教授

英語学(歴史言語学)

本道 慎吾 助手

スポーツバイオメカニクス

教育人間科学部 教育学科

野口 芳宣 特任教授
国語教育

教育人間科学部 心理学科

坂上 裕子 准教授
生涯発達心理学

法学部 法学科

廣瀬 久和 教授
民法

経営学部 経営学科

楠 由記子 准教授
管理会計

経営学部 マーケティング学科

中尾 麻衣子 助教
商学(特に広告)

国際政治経済学部 国際政治学科

小島 敏郎 教授
環境政策

国際政治経済学部 国際経済学科

友原 章典 准教授
国際経済学

国際政治経済学部 国際コミュニケーション学科

國分 俊宏 准教授
フランス文学

猿橋 順子 准教授

社会言語学

田崎 勝也 准教授

比較文化心理学、異文化コミュニケーション論、心理統計学

総合文化政策学部 総合文化政策学科

岡部 篤行 教授
地理空間情報科学

鈴木 博之 教授

建築史

真鍋 一史 教授

社会学

矢野 晋吾 准教授

地域社会学、環境社会学、労働社会学

福田 大輔 助教

精神分析

理工学部

瀧本 将弘 教授
第二言語習得

理工学部 物理・数学科

西山 享 教授
数学(表現論)

藤井 康裕 助教

物性物理学(特に光物性、相転移物性)

理工学部 化学・生命科学科

高橋 勇雄 助手
錯体化学、生物無機化学、表面化学

福井 博喜 助手

有機化学

理工学部 電気電子工学科

名取 賢二 助教
モーションコントロール、制御工学

理工学部 機械創造工学科

浅岡 龍徳 助教
熱工学、伝熱工学

橋本 宣慶 助教

人工現実感工学、生産機械工学

松尾 卓摩 助教

非破壊検査

理工学部 経営システム工学科

理用 大介 助教
インダストリアル・エンジニアリング、生産管理・生産情報システム

理工学部 情報テクノロジー学科

大原 剛三 准教授
発見科学

藤本 悠 助教

統計的学習理論

松本 章代 助教

自然言語処理

社会情報学部 社会情報学科

石田 博之 教授
エネルギー経済

岩井 千尋 教授

金融、証券、ファイナンス

GILLESPIE, S. 准教授(専任待遇)

比較国際教育

清成 透子 准教授

社会心理学

遠藤 俊典 助教

スポーツ・トレーニング論

国際マネジメント研究科 国際マネジメント専攻

宮副 謙司 教授
マーケティング

名取 耶 富美子 助手

ソフトウェア工学(ソフトウェア開発の形式工学手法)

法務研究科 法務専攻

浜辺 陽一郎 特任教授
企業法務、国際取引法

本田 守弘 特任教授

刑事法、刑事訴訟法

岡田 直己 助手

経済法、国際経済法

久保山 力也 助手

法社会学(特に民事紛争解決システム、ADR)

会計プロフェッション研究科 会計プロフェッション専攻

小西 範幸 教授
会計学

青山学院の“第2の校歌”「学生時代」の歌碑が青山キャンパスに完成し、除幕式が行われました。

1964年にレコードが発売され大ヒットした『学生時代』。「つたのからまるチャペルで…」のフレーズで知られるこの曲は、青山学院大学出身のジャズミュージシャン故平岡精二さんが、本学をイメージして作詞作曲を手がけ、平岡さんの後輩である青山学院女子高等部出身のベギー葉山さんによって歌われたもの。発売から45年経った現在も、多くの人々に愛され続けている名曲です。

青山学院創立135周年の記念事業の一環として、『学生時代』の歌碑が創られることとなり、2009年3月18日(水)に、設置場所である青山キャンパスのペリーホール本部礼拝堂前において、除幕式が行われました。当日は、歌手のベギー葉山さん、故平岡精二さんのお兄様である平岡久治さんご夫妻も式にご出席。平岡久治さん、ベギー葉山さん、松澤建理事長、半田正夫院長代行、伊藤定良大学長、原進校友会会長の6名によって除幕が行われると、学院執行部、教職員、校友・在校生など、その場に集った約300名の出席者から大きな拍手が起こりました。

その後、半田院長代行が「『学生時代』は紛れもない青山学院の第2の校歌です。何とか歌碑ができないものかと学長時代に声を大にして推進していましたが、この度、想いが叶いうれしく思っております。創立135周年にふさわしい素晴らしい記念碑ができたのではないかと思います」と挨拶。またベギー葉山さんからも「学院のみなさまのご尽力により、素晴らしい日を迎えることができ、大変うれしく思います。こんなに素晴らしい歌、学生時代の想いがすべてつまっている歌がヒット曲となったことを神様に感謝しなくてはなりません」と、挨拶がありました。

式典の最後には、ベギー葉山さんのリードのもと、集まった人全員で『学生時代』を合唱。出席者は、歌碑に刻まれた言葉の一語一語を自らの思い出と重ね合わせながら歌いました。



2009年度より「青学オープンカレッジ」がスタートします。

自由でのびのびとした本学の伝統のもとで贅沢な学びの時間を設けてほしいという学外のみなさまからの声におこたえて、本学は「青学オープンカレッジ」を開校します。青山・表参道に立地する特色を活かして、美術や建築についての文化論や国際政治の動きを読むものなど、青山学院大学にふさわしいオープンカレッジプログラムを用意します。また、青山学院大学の近隣の美術館や芸術施設の協力を得て、単に授業を受けるだけではなく、受講者が講座に参加するかたちの本学だからこそできる講座も設けます。2009年9月に開講のシリーズは、右表のとおりです。

5月から、青学オープンカレッジ開校記念も兼ね、「青山リレートーク」が実施されています。「青山リレートーク」は、各界の著名な方々による月1回の連続講演会で、シリーズとして開催します。第1回は、5月16日(土)ガウチャー記念礼拝堂にて青木保氏(文化人類学者・文化庁長官)の講演会を実施し、多くの方にご来場いただきました。次回は7月18日(土)森英恵氏(ファッションデザイナー)をお招きします(13:00~14:30、於ガウチャー記念礼拝堂)。リレートークのご参加は無料、青学オープンカレッジのホームページにて申込受付中です。みなさまの参加をお待ちしております。

青学オープンカレッジ詳細については、下記URLにて随時、更新していきます。
*青学オープンカレッジパンフレット請求・第2回青山リレートーク申込 受付中
<http://www.j-aoyama.jp/>
お問い合わせ先：青学オープンカレッジ事務局 TEL.03-3409-8501

2009年度夏期 青学オープンカレッジ講座一覧

(講座名と講義日)

日本美術の真贋	●9/1(火)・9/8(火)・9/15(火)
建築と都市の文化論	●9/2(水)・9/9(水)・9/16(水)
美の東西 — ヨーロッパの絵画と日本の美術	●9/3日(木)・9/10(木)・9/17(木)
シェークスピアの現代	●9/1(火)・9/8(火)・9/15(火)
サルトルと20世紀	●9/2(水)・9/9(水)・9/16(水)
奥の細道と俳諧文芸	●9/3日(木)・9/10(木)・9/17(木)
ブルースの『失われた時を求めて』とオペラ	●9/4(金)・9/11(金)・9/18日(金)
幕末・明治維新の日本	●9/2(水)・9/9(水)・9/16(水)
憲法9条の成立—9条をめぐる「常識」の検証—	●9/3日(木)・9/10(木)・9/17(木)
外交官の見る国際政治	●9/5(土)・9/12(土)・9/19(土)
日本の外交戦略 幕末から今日まで	●9/1(火)・9/8(火)・9/15(火)
アメリカと国際政治	●9/2(水)・9/9(水)・9/16(水)
日本の安全保障	●9/3日(木)・9/10(木)・9/17(木)
金融危機と日本経済	●9/5(土)・9/12(土)・9/19(土)
日本のマーケティングの新しい進路—IMCの視点から—	●9/5(土)・9/12(土)・9/19(土)
WTOと世界経済の動き	●9/5(土)・9/12(土)・9/19(土)
地球環境問題と日本の政策	●9/4(金)・9/11(金)・9/18日(金)
生きる意味	●9/3日(木)・9/10(木)・9/17(木)
近代日本人とキリスト教	●9/2(水)・9/9(水)・9/16(水)

1講座3講義の受講料は7,500円

2008年度 学位授与式 大学院学位授与式

2009年3月25日(水) 青山学院記念館において大学学位授与式が挙行され、昼間部3,443名、第二部(夜間部)526名、合計3,969名の卒業生に学士の学位が授与されました。

また、同日ガウチャー記念礼拝堂において大学院学位授与式が挙行され、大学院博士前期課程および修士課程修了生300名に修士の学位、専門職学位課程修了生223名に専門職の学位、さらに博士課程修了生10名、論文博士5名に博士の学位が授与されました。



Club & Circle Information

問い合わせ先
学生部学生課
Tel 03-3409-7835

*主な文化連合会・体育連合会の活動予定。
下記大会・演奏会の日程・場所は予定のものです。今後変更になる可能性もあります。

主要活動予定(2009年6月~7月)

- 居合道部 第41回東日本居合道新人戦(6月)
第16回東京都女子居合道大会(7月)
- 剣道部 全日本学生剣道選手権大会・全日本女子学生剣道選手権大会(6月)
- 拳法部 全国大学選抜選手権大会・東日本学生個人選手権大会(6月)
東日本女子個人選手権(7月)
- 硬式野球部 全日本大学野球選手権大会(6月)
- サッカー部 JR東日本カップ2009第83回関東大学サッカーリーグ戦(前期)・第23回関東大学サッカー選手権兼第33回総理大臣杯全日本サッカー選手権大会(6月)
第33回総理大臣杯サッカートーナメント(7月)
- 水泳部 夏季関東学生公認記録会(6月)
- 漕艇部 東日本大学選手権大会(6月) 関東新人ナックル選手権(7月)
- ソフトテニス部(男子・女子) 東日本学生大学対抗・全日本大学ソフトテニス王座決定戦(7月)
東日本一般選手権大会(7月)
- 卓球部(男子・女子) 関東学生卓球選手権大会(7月)
全日本学生卓球選手権大会(シングルス・ダブルス)(7月)
- チアリーディング部 関東選手権(6月)
- 軟式野球部 春季リーグ戦(6月)
- バスケットボール部(男子) 第49回関東大学バスケットボール新人戦(6月)
- 馬術部 東京馬術大会・関東学生争覇戦・関東学生馬術大会(6月)
- バドミントン部(男子・女子) 関東学生バドミントン選手権大会(6月)
- バレーボール部(男子・女子) 東日本大学男女バレーボール選手権大会(6月)
- フェンシング部 剛毅杯(6月)
- ボクシング部 関東ボクシングリーグ戦(6・7月)
東京都オープン戦・東京都選手権大会(7月)
- 陸上競技部(短距離ブロック) 日本学生陸上競技対校選手権大会(6月)
- ラクロス同好会(女子) Vリーグ戦(7月)
- 二部バスケットボール部 前期リーグ戦(6・7月)
- 青山フォークウェイズ 春季定例コンサート(6月)
- 青山学院大学アナウンス研究会 ジョイント・モニター・フェスティバル(6月)
- E.S.S. 大木杯スピーチコンテスト(6月)
- 演劇研究会 新人公演(6月)
- 青山学院オラトリオ・ソサエティ合唱団 KAY合唱団第118回定期演奏会(6月)
- ギターアンサンブル 関東ギター連盟定期演奏会(6月)
- 競技ダンス部 東日本学生競技ダンス選手権大会・単月杯争奪学生競技ダンス選手権大会・
東日本学生競技ダンスジュニア選手権大会(6月)
- グリーンハーモニー合唱団 トワイライトコンサート(6月)
- 写真研究会 写真展(6月)
- 箏・尺八研究会 関東学生三曲連盟定期演奏会(6月)
- ロイヤルサウンズジャズオーケストラ トライアングルコンサート(6月)
京王百貨店ビッグバンドコンサート(6月)

課外教育プログラムについて

課外教育プログラムは青山学院の教育方針を具現化し、正課では得ることのない知識や教養を体得し、そのことを通して社会の一員としてバランス感覚の整った学生を育成することを目的としています。

2009年度の課外教育プログラムの予定は以下の通りですので、奮ってご参加ください。詳細は学生部(青山キャンパス)・学生生活グループ(相模原キャンパス)にお問い合わせください。



4月7日(火)〈実施終了〉

アルコールパッチテスト

企画・目的

新入生を対象として学生生活が始まるに際し、飲酒に対して自己の体質をよく理解するために実施します。

実施場所: 相模原キャンパス

6月14日(日)

旬野菜の健康家庭料理(夏企画)

企画・目的

食文化を通しての異文化体験の場として、また食事作りを通して参加者の交流の機会を設定いたします。

実施場所: 外部施設利用

募集人数: 20名程度

6月10日(水)・17日(水)

青山キャンパス 上級救急救命法・相模原キャンパス 上級救急救命法

企画・目的

災害時、同時に多数の傷病者が発生した場合は、平常時のように救急車を期待することは困難となり、自主的な救護活動が極めて重要となります。このようなときのためにも救命講習を受けましょう。

実施場所: 渋谷消防署・相模原キャンパス

募集人数: 20名(青山)程度・50名(相模原)程度

9月15日(火)

ノートテイク入門

企画・目的

講習会を通してノートテイクへの理解を深めるとともに、聴覚障害者への学習支援を行います。

実施場所: 青山キャンパス

募集人数: 10名程度

9月16日(水)~18日(金)

手話講習会(集中講座3日間)

企画・目的

講習会を通して、手話への理解と、聴覚障害学生への支援活動を行います。

実施場所: 相模原キャンパス

募集人数: 30名程度(希望者数により上限は考慮する予定)

10月7日(水)

青山キャンパス 上級救急救命法

企画・目的

災害時、同時に多数の傷病者が発生した場合は、平常時のように救急車を期待することは困難となり、自主的な救護活動が極めて重要となります。このようなときのためにも救命講習を受けましょう。

実施場所: 渋谷消防署

募集人数: 20名程度

11月29日(日)

旬野菜の健康家庭料理(秋企画)

企画・目的

食文化を通しての異文化体験の場として、また食事作りを通して参加者の交流の機会を設定いたします。

実施場所: 外部施設利用

募集人数: 20名程度

*その他通年企画として使用済み切手・テレホンカードの回収を実施し、日本キリスト教海外医療協力会(JOCS 切手)、アジアキリスト教教育基金(ACEF テレホンカード)へ宗教センターを通して送付しています。

2008年度 学生表彰

2009年3月24日(火)、青山キャンパス6号館第4会議室において、「2008年度学生表彰授与式」が行われました。この表彰は、学生が在学中に学業および学友会活動以外の多様な分野において人の範となる活躍または業績をあげ、その行為が本人および青山学院大学の榮譽となるものについて、広く内外に顕彰することを目的としています。2008年度は以下の44名が受賞しました。



2008年度学生表彰 受賞者 ※学年は2008年度のものです。

- 第11回公共選択学会「学生の集い」最優秀賞(第1位)〈3年生の部〉
経済学部 中村まづるゼミナール 3年Iパート
今井 崇仁/小林 一史/春田 三四朗/日田 晴香/吉岡 志野
(全員 経済学部経済学科3年)

- 第11回公共選択学会「学生の集い」優秀賞(第2位)〈3年生の部〉
経済学部 中村まづるゼミナール 3年Mパート
池田 達夫/峯嶋 宏行/茂木 麻世里/森田 貴紀
(全員 経済学部経済学科3年)

- 第60回学生広告論文電通賞 大学生グループ部門 第1位
満田 尚久/秋津 和/上田 春佳/佐々木 洋一郎/橋本 潤一
古畑 圭章/保屋野 慎 司/赤塚 由起/折本 真奈美/杉守 真琴
福本 早苗/水野 澗/渡部 祐希/武 田 博明/野澤 唯
(全員 文学部心理学科3年)

- 第60回学生広告論文電通賞 大学生グループ部門 第2位
千田 真悠子/佐藤 祐輔/橋爪 彩真/井上 桃/佐藤 友莉
高橋 早紀/橋口 奈央子/山本 慶太
(全員 文学部心理学科(2008年3月卒業))

- 平成20年度(第7回) 学生起業家選手権 優秀賞
細川 皓司/澤木 一真/高橋 才将/小山 奈津紀
増 田 優太/石川 友紀子
(全員 国際政治経済学部国際経済学科3年)

- 第23回全国書写書道展覧会 書研会長賞
国際政治経済学部国際経済学科3年 片野 沙織

- 大学生国際問題討論会 「フォーラム2008」 優秀賞(2位)
青木 麻名人/岩城 久平/久保 有志
(全員 国際政治経済学部国際政治学科2年)

- 第63回国民体育大会 青年女子国体ウィンドサーフィン級 9位(福岡県代表)
全日本学生ボードセイリング選手権大会関東支部大会 エキスパートクラス・レディース 2位通過(入賞)
全日本学生ボードセイリング選手権大会(インカレ) エキスパートクラス・レディース 3位入賞
国際政治経済学部国際 コミュニケーション学科3年 石橋 みなこ

- 第19回ヤンマー学生懸賞論文 佳作
国際政治経済学部国際政治学科4年 高木 超

2009年度 入学式

2009年4月4日(土)、青山学院記念館において大学入学式が挙行され、昼間部4,284名、第二部(夜間部)127名、合計4,411名の新入生が入学しました。また、同日、ガウチャー記念礼拝堂において、大学院入学式が挙行され、634名が入学しました。



総合研究成果 発表状況

研究活動を終了したプロジェクトからは市販本や報告論集を研究成果として、研究途中のプロジェクトの一部からは中間報告が、2008年度は以下の通り刊行されました。

2008年度研究成果

研究部	研究プロジェクト	研究成果
人文科学	「声」と「身体」の探求 —現代欧米詩劇における 「ギリシア劇」と「能」の再生—	市販本 『ギリシア劇と能の再生 声と身体との諸相』 (水声社)4,200円(税込)
人文科学	大学における 基本アカデミックスキルの 育成プログラムの開発	市販本 『学びあいが生み出す書く力 大学におけるレポートライティング 教育の試み』 (丸善プラネット)2,520円(税込)
人文科学	帝国官僚と支配—興隆と崩壊	市販本 『世界史のなかの帝国と官僚』 (山川出版社)2,940円(税込)
社会科学	IT革命と企業経営 —ITビジネス・IT企業・IT産業	市販本 『IT革命と企業組織』 (学文社)2,625円(税込)
自然科学	マイクロサイズのセルと1次元電極 の製作、そして、それによるアハラノ フ・ボーム効果の測定	報告論集
自然科学	ジャストインタイム・スケジューリング に対する最適化手法の開発	報告論集
課題別	拡大ヨーロッパと東アジアの地域 再編—地域統合・安全保障・社会 政策の比較研究—	研究成果中間報告
eラーニング人材育成研究センター		市販本 『BSCIによる戦略志向のITマネジメント』 (白桃書房)2,625円(税込)
		『e-Learning専門家庭教育プログラム』 評価活動報告書—持続可能な eラーニングの鍵— TF13
		研究叢書 TF21・TF26・TF29

News Index 2009.2~4

2009年2~4月までの大学ウェブサイト「新着情報」の主なタイトルを掲載しています。

09年2月

- 文学部日本文学科 日置俊次ゼミの学生が、第14回「前田純孝賞」学生短歌コンクールに入賞しました
- 企業のニーズと大学の研究シーズとのマッチングを実現する「かながわ産学公連携推進協議会」が発足しました
- 理工学研究科 渡辺拓人さんがゴットフリード・フグネル賞2008を受賞
- 2009年度オープンキャンパスの日程が決まりました

- 4年生の保屋野慎司さんが入賞しました
- NHK-FM「音の風景スペシャル」耳をすませば未来が聞こえる(3/14放送)で総合文化政策学部の取り組みが紹介されました
- 第61回学生広告論文電通賞で経済学部4年高橋さんと同学部2年垂石さんが入賞しました
- 本学WTO研究センターとバンコグラデッシュWTO研究センターの相互協定調印
- 「青山学院スタイル2008」で会計プロフェッショナル研究科を紹介
- 理工学部 化学・生命科学科阿部二郎准教授は(高速フォトリソミック化合物)の開発に世界で初めて成功し、関東化学株式会社より製品化されることになりました

09年3月

- 採用内定取消者等の卒業延期制度について
- 青山学院では、創立135周年を記念して、「学生時代」歌碑の除幕式を行います
- 総合文化政策学研究科 伊藤真利子さんが第1回石橋湛山新人賞を受賞
- 第61回学生広告論文電通賞で文学部心理学科

09年4月

- 第50回科学技術週間サイエンスカフェで秋光教授が講師を務めます
- 2009年度より「青学オープンカレッジ」を開校します

2008年度 体育会優秀団体・選手表彰

2009年3月11日(水) アイビーホール 青学会館において「2008年度体育会優秀団体・選手表彰」が開催されました。祝賀会には、半田院長代行、伊藤学長をはじめ、本郷学生部長、江泉体育会会長ならびに体育会各部長、表彰団体監督や表彰学生、各部の代表者が出席し、以下の団体・選手が表彰されました。



2008年度体育会表彰団体・選手 ※学年は2008年度のもです。

- 【最優秀団体】**
 バスケットボール部(男子) 第57回関東大学選手権大会優勝
 第84回関東大学リーグ戦優勝
 第60回全日本学生選手権大会3位
 バレーボール部(女子) 第61回秩父宮賜杯全日本大学選手権大会優勝
 第27回東日本大学選手権大会3位
- 【最優秀選手】**
 荒尾 岳 (国際政治経済学部4年) バスケットボール部(男子) 第84回関東大学バスケットボールリーグ戦(最優秀選手賞・リバウンド王)
 第12回日本学生選抜バスケットボール選手権大会(最優秀選手賞)
 第31回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会(日本代表)
 第57回関東大学バスケットボール選手権大会(最優秀選手賞・リバウンド王)
 バスケットボール部(男子) 第57回関東大学バスケットボール選手権大会(優秀選手賞)
 第84回関東大学バスケットボールリーグ戦(優秀選手賞)
 第31回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会(日本代表)
 バスケットボール部(男子) 第57回関東大学バスケットボール選手権大会(優秀選手賞・アシスト王)
 第84回関東大学バスケットボールリーグ戦(優秀選手賞・アシスト王)
 第31回李相伯杯争奪日韓学生バスケットボール競技大会(日本代表)
 バレーボール部(女子) 第6回東アジア地区バレーボール選手権大会優勝(日本代表)
 全日本バレーボール大学男女選手権大会(第61回秩父宮賜杯・第55回秩父宮妃賜杯優勝)(最優秀選手賞・セッター賞)
 バレーボール部(女子) 第6回東アジア地区バレーボール選手権大会優勝(日本代表)
 全日本バレーボール大学男女選手権大会(第61回秩父宮賜杯・第55回秩父宮妃賜杯優勝)(ベストスコアラー賞)
 フェンシング部 アジアジュニア・カデ・選手権大会(女子エペ)6位
 全日本学生個人選手権大会(女子エペ)2位
 JOCジュニア・オリンピックカップ大会2位
 陸上競技部(短距離部門) 第87回関東学生陸上競技対校選手権大会(女子100mH)優勝
 日本学生陸上競技個人選手権大会(女子100mH)優勝
 第95回日本陸上競技選手権大会(女子100mH)2位
 天皇杯第77回日本学生陸上競技対校選手権大会(女子100mH)2位
- 【優秀団体】**
 空手道部(女子) 内閣総理大臣杯第51回全国選手権大会形の部準優勝
 第52回全日本選手権大会形の部準優勝
 都都大学春季リーグ戦優勝(全国大会出場)
 第31回全日本選手権大会ベスト8
 陸上競技部(長距離部門) 第85回東京箱根間往復大学駅伝競走出場
- 【優秀選手】**
 出雲 達成 (経営学部3年) 拳法部 第12回東日本大学形演武選手権大会 一人形の部(優勝)
 高島 毅 (経済学部4年) 硬式野球部 ハーレム・ベースボールウィーク出場
 第4回世界大学野球選手権大会出場
 井上 雄介 (文学部4年) 硬式野球部 ハーレム・ベースボールウィーク出場
 第4回世界大学野球選手権大会出場
 少林寺拳法部 第42回全日本学生大会 男子単独 有段の部(最優秀賞)
 ソフトテニス部(女子) 第60回三笠宮賜杯全日本学生選手権大会(第3位)
 ソフトテニス部(女子) 第60回三笠宮賜杯全日本学生選手権大会(第3位)
 軟式野球部 都都大学軟式野球連盟春季リーグ(最優秀選手、最優秀投手賞、ベストナイン・投手、最多奪三振、最多勝)
 馬術部 第44回全日本学生馬術女子選手権大会(3位)
 バドミントン部(女子) 第10回世界学生選手権大会女子ダブルス(準優勝)・ミックスダブルス(ベスト16)
 バレーボール部(女子) 第6回東アジア地区バレーボール選手権大会優勝(日本代表)

伊藤 彩香 (文学部2年)
 一瀬 直 (法学部4年)
 近藤 健介 (理工学部3年)
 池田 有希 (文学部2年)

菊地 賢人 (経営学部2年)
 横山 大士 (経済学部2年)
 尾曲 伸乃祐 (経済学部3年)

河野 隆太 (経済学部3年)
 丸山 明子 (経営学部3年)

【敢闘団体】
 居合道部
 空手道部(男子)

テアリーディング部
 バレーボール部(男子)
 洋弓部
 パワーリフティング部

【敢闘選手】
 谷 葉子 (文学部4年)

小野田 賢 (文学部2年)
 大宮 隼人 (法学部3年)
 梶田 夏子 (文学部4年)
 河原 由実 (経済学部4年)
 藤井 蓉子 (経営学部4年)
 高森 夕布 (文学部4年)
 宮原 航太 (経済学部2年)
 須川 陽介 (法学部3年)

千原 悠 (経営学部3年)
 井原 淳平 (理工学部2年)
 佐々木 徹也 (法学部4年)
 岡崎 集也 (国際政治経済学部4年)
 辻本 啓吏 (国際政治経済学部2年)

【奨励選手】
 早田 知世 (文学部2年)

大橋 陽香 (国際政治経済学部1年)
 澁谷 龍 (文学部1年)

バレーボール部(女子) 全日本バレーボール大学男女選手権大会(第61回秩父宮賜杯・第55回秩父宮妃賜杯優勝)(リベロ賞)
 パワーリフティング部 第86回関東学生パワーリフティング選手権大会(60kg級)優勝
 パワーリフティング部 第86回関東学生パワーリフティング選手権大会(82.5kg級)優勝
 陸上競技部(短距離部門) 日本学生陸上競技個人選手権大会(女子400m)3位
 秩父宮賜杯第48回実業団・学生対抗陸上競技大会(女子400m)優勝
 レスリング部 JOC杯ジュニアオリンピックカップ(フリー)60kg級3位
 レスリング部 JOC杯ジュニアオリンピックカップ(グレコローマン)66kg級3位
 レスリング部 全日本学生選手権グレコローマン(84kg級)優勝
 全日本大学グレコローマンスタイル選手権大会(84kg級)優勝
 レスリング部 天皇杯全日本選手権(グレコローマン)120kg級3位
 レスリング部 全国社会人オープン選手権女子(59kg級)優勝・MVP
 天皇杯全日本選手権女子(63kg級)第3位

第41回東日本学生大会準優勝
 内閣総理大臣杯第51回全国選手権大会形の部3位
 関東学生秋季リーグ戦2部優勝(1部昇格)
 北日本フェスティバルAチーム1位
 関東大学秋季リーグ戦3部2位(2部昇格)
 関東学生リーグ戦3部1位(2部昇格)
 第86回関東学生選手権大会準優勝

航空部 第11回原田覚一郎杯(5位)
 第24回関東学生グライダー競技会(6位)
 硬式庭球部(男子) 全日本学生室内テニス選手権大会(ベスト16)
 少林寺拳法部 少林寺拳法全国大会運用法一般男子有段の部(優秀賞)
 少林寺拳法部 少林寺拳法全国大会運用法一般女子有段の部(優秀賞)
 ソフトテニス部(女子) 第59回東日本学生選手権大会(準優勝)
 ソフトテニス部(女子) 第59回東日本学生選手権大会(準優勝)
 卓球部(女子) 第75回全日本学生卓球選手権大会女子シングルス(14位)
 パワーリフティング部 第86回関東学生パワーリフティング選手権大会(52kg級)新人の部 優勝
 洋弓部 関東学生アーチェリーフィールド個人選手権大会(男子)5位
 関東学生アーチェリーオールラウンド大会(男子)4位
 全日本学生アーチェリー個人選手権大会(男子)51位
 ヨット部 第56回国公立戦(関東)1位
 ヨット部 第56回国公立戦(関東)1位
 陸上競技部(長距離部門) 第87回関東学生陸上競技対校選手権大会(男子二部3000m)優勝
 陸上競技部(長距離部門) 2008日本学生陸上競技個人選手権大会(男子1500m)5位
 陸上競技部(長距離部門) 第85回東京箱根間往復大学駅伝競走出場 9区6位

卓球部(女子) 関東学生卓球新人選手権大会女子シングルス(優勝)
 関東学生卓球選手権大会女子シングルス(ベスト16)
 パワーリフティング部 第86回関東学生パワーリフティング選手権大会(60kg超級)優勝・最優秀新人選手賞
 パワーリフティング部 第86回関東学生パワーリフティング選手権大会(76kg級)新人の部 優勝



2008年度の体育会活動も、いくつかの誇るべき成果をあげることができました。バスケットボール部(男子)やバレーボール部(女子)の各大会での優勝や、その他の部・個人においても、全国レベルでの輝かしい成績を残しました。特に陸上競技部においては、厳しい予選を見事突破し、33年ぶりとなる箱根駅伝出場を果たし健闘しました。今後も駅伝に見られたように、一般学生の支持のもと、多くの部活動がより活発になることを願うとともに、体育会活動が学院全体の活性化につながることを期待しています。

(2009年度体育会会長 仙波 憲一 国際政治経済学部教授)

青山スタンダード科目
授業紹介

「ウェルカム・レクチャー」



薩摩 順吉

理工学部物理・数理学科教授

担当教員：文学部史学科教授 阪本 浩、法学部教授 西澤 宗英、国際政治経済学部教授 仙波 憲一

2009年度から新しく開講する講義です。青山学院大学では2003年度より青山スタンダード科目をスタートしました。この科目はそれまでの教養教育を抜本的に改革したもので、「およそ青山学院大学の卒業生であれば、どの学部・学科を卒業したかに関わりなく、一定の水準の技能・能力と一定の範囲の知識・教養をそなえているという社会的評価を受けること」を到達目標としています。さまざまな学問分野の幅広い教養を身につけることによって、専門領域の壁を越え、物事について多面的、多角的に考えることができるようになります。また、異分野や異文化において活躍している人たちとの豊かなコミュニケーションをとることが可能になります。変化の激しい時代において求められるのは、こうした物事を多面的に分析できる能力であり、複雑な現象や事柄の奥にひそむ本質を見抜く力です。現代は、自然環境、社会環境、文化環境、そして歴史環境との関わり合いの中に自己を位置づける洞察力が切実に求められる時代と言っているでしょう。



仙波 憲一 教授

青山スタンダード教育では、これまでも、教養コア科目の中で、多面的・多角的に内容を学ぶ「総合科目」を配置し、上記の目標実現に一定の役割を果たしてきました。今回新しく開講する「ウェルカム・レクチャー」は、領域を横断し、より総合的に科目内容を学ぶことを目的としています。

具体的には人文科学、社会科学、自然科学を専門とする4人の教員がそれぞれの専門を生かし、学問を学ぶ意味について、具体例を盛り込みわかりやすく説明します。講義の対象は次の4つです。

1.歴史をなぜ学ぶのか(担当:阪本)

賢者は歴史に学ぶという言葉があります。歴史学は単に暗記科目でなく、生き方を学ぶのに不可欠な学問であるということを講義します。

2.法律はなぜ必要か(担当:西澤)

人間が社会活動を行う際、また国家が政策を実施するときなど、ルールが必要となります。法律のもつ意味、またその必要性について講義します。

3.経済活動の仕組み(担当:仙波)

経済は人の営みであり、生きていく上で必要なものです。人間の生活が豊かになるために

どのような仕組みを作るか、またその中身はどういうものかについて講義します。

4.数学的なものの見方(担当:薩摩)

数学は科学を語る言葉と言われます。現在では自然科学だけでなく社会科学や人文科学にも数学が使われています。数学がなぜ必要か、また数学的なものの見方がなぜ大切かについて講義します。

この講義はまた、大学で学問を学ぶ意義について理解を深めることも目的としています。とくに青山スタンダード科目の履修が単に教養を身につけるだけでなく、学生生活を送る際、および社会に出たときに必要なものであるということを伝えていきたいと考えています。大学に入って、受験勉強的なものと違った視点で学びたいという学生の受講を歓迎しています。



薩摩 順吉 教授



阪本 浩 教授



西澤 宗英 教授

2009年度ペアレンツウィークエンドのお知らせ

青山学院大学では、大学後援会事業の一環として保護者のみなさまとの連絡を密にし、ご子女に関する相談や本学に対するご意見等をうかがい、それらを大学運営に反映させる目的をもって、懇談会を開催しています。今年度の開催日程は下表のとおりです。対象となる保護者の方には、改めてご案内いたします。より多くの保護者のみなさまの参加をお待ちしております。



青山キャンパス・相模原キャンパス開催

開催日	学部	開催キャンパス
5月30日(土)	全学部1年生	青山
6月27日(土)		相模原

開催時間●13:00~16:00

対象:どなたでも参加いただけます。(懇談会内容は、主に全学部1年生の保護者の方を対象としています)

開催日	対象学部(主に2・3年生の保護者の方対象)	開催キャンパス
6月6日(土)	経営学部/法学部	青山
6月13日(土)	経済学部/総合文化政策学部	
6月20日(土)	文学部/国際政治経済学部	
10月10日(土)	理工学部	相模原
10月11日(日)	社会情報学部	

開催時間●13:00~16:00(学部によって時間が異なる場合があります)

対象:どなたでも参加いただけます。(懇談会内容は、主に2・3年生の保護者の方を対象としています)

地区

地区	開催都市	開催日	会場
北海道	函館市	8月1日(土)	ロワジールホテル函館
	札幌市	8月2日(日)	ホテルオークラ札幌
秋田	秋田市	8月9日(日)	秋田キャッスルホテル
	仙台市	7月12日(日)	ホテル仙台プラザ
栃木	宇都宮市	7月4日(土)	宇都宮東武ホテルグランデ
群馬	高崎市	9月6日(日)	高崎ビューホテル
山梨	甲府市	7月18日(土)	常盤ホテル
福井	福井市	7月20日(月祝)	ホテルフジタ福井(福井ワシントンホテル)
愛知	名古屋	8月30日(日)	キャッスルプラザ
静岡	静岡市	8月29日(土)	ホテルアソシア静岡
岡山	岡山市	8月23日(日)	ホテルグランヴィア岡山
京都	京都市	8月22日(土)	ホテルグランヴィア京都
鳥取	米子市	8月1日(土)	米子全日空ホテル
香川	高松市	8月9日(日)	全日空ホテルクレメント高松
徳島	徳島市	9月12日(土)	ホテルクレメント徳島
福岡	福岡市	7月26日(日)	ソラリア西鉄ホテル
山口	山口市	7月25日(日)	山口グランドホテル
熊本	熊本市	7月5日(日)	ホテルニューオータニ熊本
沖縄	那覇市	7月4日(土)	沖縄都ホテル

開催時間●10:30~15:00(会場によって時間が異なる場合があります)

対象:全都道府県在住、全学年の保護者の方。お住まい近くの会場に限らず、どの会場にご出席いただいても結構です。

お問い合わせ先:庶務部庶務課 ペアレンツウィークエンド 担当
TEL. 03-3409-8568

前期チャペル・ウィーク

5月25日(月)~30日(土)は前期チャペル・ウィークです。チャペル・ウィークは、春と秋の年2回、各界で活躍中のクリスチャンをお招きして大学礼拝でお話をさせていただく特別伝道週間です。



この期間は普段の大学礼拝とは異なり、教会の牧師や宣教師だけでなく、一般企業の要職にある方、社会福祉の現場で活動されている方、教育に携わっている方、音楽家の方などが、それぞれの分野での豊富で貴重なご経験をもとに、ご自身のお働きとキリスト教との関わりについて語ってくださいます。聖書に示される神様の愛と慈しみを、より身近に具体的なものとして受け止めることができるでしょう。

宗教センター主催

青山学院フィリピン訪問プログラム

3月17日(火)~27日(金)の11日間の日程で、フィリピンを訪問して参りました。このプログラムは、チャイルド・ファン・ジャパンの支援によって運営されている現地の地域センター(フィリピン各地に設立され、子どもたちの就学支援、地域支援などを行っている)を訪問し、その活動を知ることを中心にしています。

プログラムの前半は大学生7名、引率教員2名が参加し、後半は初等部児童6名、引率教員2名が合流しました。面接を経て事前学習を重ねた大学生チームは、マニラの国際空港で暑さに出迎えられ、プログラムを開始しました。前半のヤマ場はルソン島内の農村部(マニラからバスで北に向かって約8時間)でのホームステイです。この地域は米、とうもろこし、バナナが主な産物であり、アルダースゲート大学内に設立されたセンターの支援を受けています。それぞれセンタースタッフと二人一組になって各家庭にホームステイしました。ステイ先は電気の通っていない家庭も多く、便利さに慣れている参加者にとって素朴な生活を知る得難い機会となりました。ホームステイの後は、マニラとその周辺で都市部の貧困地域を訪問しました。フィリピン最大のごみ処分場のあるパヤタスでは、センターや家庭を訪問し、処分場に密着した生活を見ることができました。

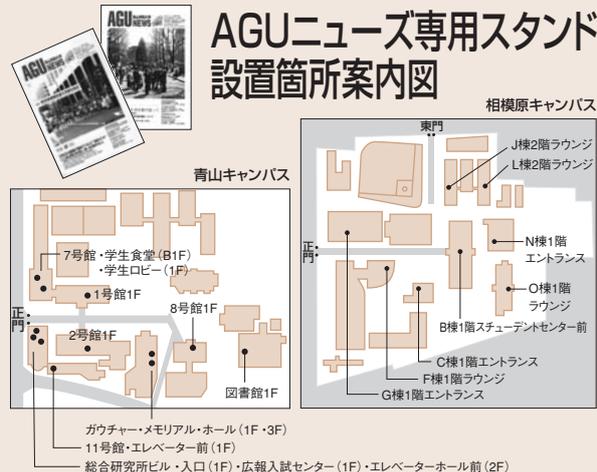
初等部と合流した翌日は日曜日でしたので、マニラ市内のカトリック教会の早朝ミサ、さらにプロテスタント教会の礼拝に出席しました。次の日からは空路南下し、バナ



島のイロイロ、セブ島のバリリなどのセンターや、各センターが支援する子どもたちの通う小学校、高校を訪問しました。行く先々のセンターや学校では、おいしいフルーツやお菓子などによる歓迎のもとをなしを受けました。セブ島のセンターはカトリックの修道会によって運営されており、シスターたちの働きを間近に見ることもできました。

気温の急激な変化や疲れによって体調を崩す場面もありましたが、ゆったりと時間が流れるフィリピンタイムを味わいながら、貧困という言葉で単純に割り切ることのできない多様さを教えられ、また本当に大切なものは何であるのかを考えさせられました。報告会を開催しますので詳細は宗教センターまでお問い合わせください。

AGUニュース専用スタンド設置箇所案内図



2009年度 進学相談会開催日程

青山学院大学では、本学受験を希望する受験生に情報を提供し、本学への理解を深めていただくため、全国各地で開催される進学相談会に参加していただきます。開催日程は以下の通りです。

6/12(金)	函館	ベルクラシック函館	9/12(土)	新潟	新潟東急イン
6/13(土)	札幌	アスティ45	9/9(水)	金沢	金沢駅もてなしドーム
9/19(土)	札幌	アスティ45	6/9(火)	静岡	ツインメッセ静岡
6/3(水)	盛岡	ホテルメトロポリタン盛岡	6/13(土)	名古屋	ナディアパーク デザインホール
6/28(日)	仙台	AER	9/26(土)	静岡	パルシェ
7/3(金)	郡山	郡山ビューホテルアネックス	6/20(土)	大阪	梅田センタービル クリスタルホール
7/4(土)	福島	エスパル福島	9/5(土)	神戸	神戸サンボーホール
6/2(火)	水戸	水戸プラザホテル	6/1(月)	岡山	岡山コンベンションセンター
6/3(水)	宇都宮	マロニエプラザ	7/5(日)	広島	広島国際会議場
5/29(金)	川越	川越プリンスホテル	9/15(火)	高知	高知市文化プラザかるぼと
5/30(土)	池袋	サンシャインシティ ワールドインボートマート	9/16(水)	高松	全日空ホテルクレメント高松
6/2(火)	大宮	大宮ソニックシティ	9/18(金)	徳島	ホテルクレメント徳島
6/9(火)	渋谷	渋谷エクセルホテル東急	9/19(土)	松山	ひめぎんホール
6/13(土)	横浜	横浜新都市ビル(横浜ごとう)	6/4(木)	鹿児島	鹿児島商工会議所ビル
6/14(日)	千葉	京葉銀行文化プラザ	6/5(金)	熊本	ホテル日航熊本
7/11(土)	池袋	サンシャインシティ ワールドインボートマート	6/6(土)	福岡	エルガーラ
7/26(日)	横浜	パシフィコ横浜	7/4(土)	福岡	エルガーラ
6/1(月)	長野	ビッグハット	9/29(火)	宮崎	MRT micc
6/3(水)	甲府	ベルクラシック甲府	7/16(木)	那覇	おきでんふれあいホール
7/7(火)	新潟	ANAクラウンプラザホテル新潟	7/17(金)	那覇	おきでんふれあいホール

※開催日、会場等は変更になる場合がありますので、広報入試センター広報課にお問い合わせください。
※進学相談会の全日程は本学ホームページでご覧いただけます。

21世紀の総合学園創造のために、 「青山学院 EVERGREEN 21 募金」

ご協力を
お願いします

〈募金対象事業〉

■青山キャンパス再開発

校舎の建設、環境整備等、魅力ある都市型キャンパス再構築
個人 1口5万円、1口未満の金額についてもお受けいたします。

■在学生支援体制の充実

給付型「青山学院スカラシップ制度」の充実

・冠奨学金／寄付者の名前を冠し、寄付者による給付条件
金額の設定(15万円以上)

お名前を冠することを希望されない場合、または15万円未満のご寄付は
「エバーグリーン奨学金」の名称に統合して奨学金を設定いたします。

※個人によるご寄付は税制上の優遇措置の対象となります。

パンフレット請求先:募金事務局(本部3F)

TEL:03-3409-6208 FAX:03-3409-3890

2009年度 オープンキャンパス

■ オープンキャンパス(受験生、高校1・2年生、保護者の方のご来場もお待ちしております) 青山キャンパス

10:00～16:00(予約不要・入退場自由)

※青山キャンパスでは開催日によって対象学部が異なりますのでご注意ください。

●7/19(日)

対象学部:文学部(第二部含む)、教育人間科学部、総合文化政策学部、理工学部

●7/20(月・祝)

対象学部:経済学部、法学部、経営学部、国際政治経済学部、社会情報学部

●8/29(土)

対象学部:全学部

相模原キャンパス

10:00～16:00(予約不要・入退場自由)

●7/12(日)

対象学部:全学部



開催内容

歓迎礼拝／大学紹介・入試概要紹介／全学共通教育システム「青山スタンダード」
概要紹介／各学部学科紹介／学部学科企画(模擬授業、ゼミナール公開等)／入
試問題解説／個別進学相談／留学説明会／大学紹介DVD上映／教育施設自由
見学(各教育施設)／資料閲覧等を予定しています。

※学部・学科によって企画内容は異なり、また変更になる場合があります。

★オープンキャンパス学生ボランティア募集中!!

20,000名以上の来場があるオープンキャンパスにて、受付・案内などの作業をボ
ランティアでお手伝いいただける学生(本学学生のみ)を募集しています。募集要
項の配布、申込受付は、学生部学生課(青山キャンパス)およびスチューデント
センター・学生生活グループ(相模原キャンパス)にて、6月8日(月)まで行っています。
ぜひご協力ください。

■ 社会人のための大学・大学院説明会

青山キャンパス●7月19日(日)10:00～16:00(受付 9:30～15:00)

内容:社会人・職業人対象の入学試験を実施する学部学科・研究科専攻の
紹介、教員・在学生との懇談等を予定しています。

※オープンキャンパスの開催内容等については、本学ホームページでご確認ください。
お問い合わせ先 広報入試センター広報課 TEL: 03-3409-8626

大学紹介パンフレットのデジタルパンフレットをHP掲載

大学紹介パンフレットおよびビデオが下記アドレスにてご覧いただけます(内容の一部抜
粋)。なお、2010年度版については6月以降にアップロード予定です。

<http://www.aoyama.ac.jp/admission/college/reference/index.html>

本学のタイムリーな情報を発信 ――― AGUニュース ～2010年1月号で通算「第50号」を迎えます～

青葉が目に見える季節となりました。3月25日(水)の卒業式で
本学を巣立った卒業生たちは、そろそろ新しい生活に慣れ始めたこ
ろではないでしょうか。また、4月4日(土)の入学式で本学の一員
となった新入生たちも、ようやく大学生としての自覚が生まれてく
る時期。新緑とともに、キャンパス内も活気づいてまいりました。

年に5回(1月、3月、5月、7月、10月)発行しております本紙「AGU
ニュース」では、本学の理念に基づく取り組み、各学部の研究・教育
成果、学生の活動記録、各種イベント紹介をはじめ、常に躍進を続け
る青山学院大学の姿をタイムリーに発信。キャンパス内で配布する
一方で、保護者の方々宛にも送付させていただいております。



2000年度のスタートと同時に創刊しました本紙ですが、2010
年の年明け1月発行号では、記念の「第50号」を迎える予定です。
今後も本学の情報を的確にお伝えする広報誌として、みなさまに楽
しんでいただける誌面作りに努めてまいりますので、引き続きご愛
読のほど、何卒よろしくお願いたします。

AGUニュースについて

青山学院大学では、大学広報誌「AGUニュース」を年5回(1月、3月、5月、7月、10月)発
行し、在学生の保証人の方々へ送付しています。また、在学生を対象としてキャンパス内
AGUニュース専用スタンドにて配布しています。

●なお、「AGUニュース」を確実に保証人の方々へお届けするため、住所が変更になった
場合は、住所変更の手続きをお取りください。

青山キャンパス→学生部厚生課

事務取扱窓口

相模原キャンパス→スチューデントセンター・学生生活グループ

広報入試センター広報課 ● 2009年5月20日発行 ●